

令和5年度 総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和5年12月5日(火) 開会 午前10時00分
閉会 午前11時40分
2. 会 場 根室市役所 3階 大会議室
3. 出席者等
- | | |
|----------------|---------|
| 根室市長 | 石垣 雅 敏 |
| 根室市教育委員会 教 育 長 | 波 岸 克 泰 |
| 委 員 | 岩 崎 園 子 |
| 委 員 | 石 垣 浩 一 |
| 委 員 | 魚 谷 直 世 |
| 委 員 | 兒 玉 歩 |
| 根室市立北斗小学校 校 長 | 飯 田 雄 士 |
| 根室市立光洋中学校 校 長 | 齋 藤 征 志 |
| 北海道根室高等学校 校 長 | 松 田 素 寛 |
| 事務局 教育部長 | 園 田 達 弥 |
| 教育総務課長 | 佐 藤 健 史 |
| 教育支援担当主幹 | 上 原 哲 朗 |
| 学校教育指導室長 | 高 野 智 晴 |
| 学校教育指導主幹 | 山 谷 良 雄 |
| 社会教育課長 | 藤 澤 進 司 |
| 社会体育課長 | 能 崎 嘉 |
| 図書館館長 | 松 崎 誉 |
| 総務主査 | 飯 島 美 紀 |
| 学校教育主査 | 大 沼 公 治 |
| 社会教育指導班主任 | 井 口 舞 子 |
| 社会教育指導班主任 | 市 六 拓 磨 |
- 傍 聴 者 3名

4. 付議事項等

意見交換：「未来につなぐまちづくり～ねむろっ子の郷土愛を育む～」について

議 事：市教委各課の課題と将来に向けた取り組み

5. 議 事

<佐藤教育総務課長>

ただいまから、令和5年度総合教育会議を開催いたします。

開催にあたりまして、主宰者であります石垣市長より挨拶いたします。

石垣市長あいさつ

<石垣市長>

皆さんおはようございます。

令和5年度総合教育会議の開催にあたりまして、ご挨拶をさせていただきます。

教育委員の皆様には、日頃より当市教育行政の推進に多大なるお力添えを賜っておりますことに心から敬意と感謝を申し上げます。

本総合教育会議は皆様ご承知のとおり、地方教育行政法のもと設置されているものであり、自治体の長と教育委員の皆様が一堂に会し、教育行政についての意見を交わすことで、教育政策の方向性を共有し、一致した考えで執行にあたることを目的とするものであります。今回で10回目の開催となりますが、皆様にとって有意義な情報共有、そして意見交換ができればと考えております。

市政方針の中で、「教育施策の展開にあたっては、将来を担う子どもたちが主体的に自らの未来を拓き、生涯を通じて学び、活躍できる多様な機会を提供するなど、住み慣れた故郷の豊かさを実感できる教育・文化の振興を図る」と述べさせていただきました。それぞれの皆様が既に現場でご尽力、ご苦勞されていることだと思えます。

本日は校長先生も見えておりますけれども、私は昨日北斗小学校6年生の皆さんの、「ふるさと学習まとめ発表会」へ出席をさせていただきました。タブレットを使いこなしながらの、堂々とした発表を見届けましたが、根室の子どもたちに大きな希望を感じた次第です。

私は北斗小学校出身で現役時代に60周年を迎えました。今121周年でありますことから、60年後の後輩でありますけれども、「我々の時にはこんなことできなかったな、その光るものをさらに伸ばすためにはどうすればいいのか。逆に我々が試されているな」と思いながら帰った次第であります。

さて、根室市の教育施策といたしましては、「落石中学校校舎の移転新築」、「学校給食費の無償化」、「ふるさと給食」の継続実施などの取り組みに加えて、「市内路線バスを利用する18歳以下の利用料無償化」、「JR通学をしている高校生の定期券購入費の全額助成」、こちらは生徒ばかりではなくて、保護者からも、仕事をしながら子どもを送ることがなくなり非常に良かった、というありがたい話もいただいております。

それらの経済的負担の軽減、そしてスポーツ・レクリエーション機能の充実として、「(仮称)総合体育館の基本構想策定」など新たな取組についても市教委と連携のもと取り組んでおりますが、例えば今の物価高の状況で学校入学時の準備も大変だなと、まだまだ考えることも多いところです。

本日は、当市の将来を見据えた教育のあり方について意見交換し、今後の教育施策に生かしてまいりたいと考えております。現在はちょうど予算編成の時期でありますので、直近の事も多く報告していただければと思います。

教育委員の皆さんにおかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

<佐藤教育総務課長>

ありがとうございます。

本日の意見交換につきましては、小中高それぞれの「ふるさと学習」や「郷土愛を育む学び」等について報告をいただきながら進めてまいります。

このことからご紹介いたしますが、北斗小学校校長で根室市立学校校長会会長でもあります飯田校長先生、光洋中学校校長で根室管内校長会の事務局長でもあります齋藤校長先生、根室高等学校の松田校長先生にも、ご出席をいただいております。

それでは会議に入りたいと思います。

これより会議の進行は、主宰者であります市長をお願いいたします。

意見交換「未来につなぐまちづくり～ねむろっ子の郷土愛を育む～」について

<石垣市長>

次第「2」の意見交換といたしまして、「未来につなぐまちづくり～ねむろっ子の郷土愛を育む～」について、はじめに、波岸教育長より、根室に住まれて2年が経ちましたが、この間、まちづくりと子どもたちの学びの現場をご覧になって、気づいたことや感想等ありましたらお話いただければと思います。

<波岸教育長>

資料1と2を基にお話しさせていただきます。

この2年間で「根室市の学校教育が目指すところ」ということを明らかにしながら、校長先生方と進んでまいりました。

他の町では小中一貫教育が進んでいて、「目指す15歳の姿」ということでありますが、根室市では15歳ではなく将来の市民を育てるということを願って、根室人としての誇りや愛郷心、柔軟に対応する力、他者と協働する力も含めて、そういう市民に育ててほしいのだからということを願いながら、目指すところを決めてまいりました。

この間、学校現場や地域行事等、様々な場面で根室市の子どもたちと触れ合っております。率直に感じるのは、根室市には非常に純粋で才能にあふれた子どもが多いということです。ポテンシャルが実に高いということを実感しています。小中学校で実際に学習していることもそうなのですけれども、絵画、書道、華道や各種競技において全道全国で活躍している生徒もおりますし、中には国際舞台で活躍している方もいます。

一方で、純粋すぎることから、ちょっと傷つきやすく、一度つまずいたらなかなか立ち上がれない子どもも少し多いかなという印象も受けます。こうした状況も市民も感じているのではないかなと思いますが、1枚めくっていただいて資料2をご覧ください。

令和5年根室市市民意識調査結果では、教育に望むこととして、「社会のルールや命の大切さを理解させる心の教育の充実」を望む声が最も多く33.5%、次いで「生きる力を育てる

総合的な学習の充実」が14.1%、「個性や才能を伸ばす教育の充実」が12.6%という結果となっています。教育委員会といたしましては、先ほどの学校教育の目指すところで述べましたが、将来の根室市を担う人材として、「根室人としての誇りや愛郷心」、「常識や前提にとらわれず、多様化する課題に柔軟に対応する力」、「多様性を受容し、他者と協働する力」を育みたい。こう願っております、こうした資質能力を育むことができれば、意見や提案として寄せられた、「勉強できる場が欲しい」とか、様々な情報を解決するために人が人頼み、行政頼みなど、そういったところを用いず、他者と協働しながら、当事者として自分事として実行していくことができる人材を育成できるのではないかなと考えております。

こうした根室人を育てていくためには、小中学校段階での総合的な学習の時間、高校段階の総合的な探究の時間の充実を図っていくことが重要だと考えております。

本日はこの後、小中高それぞれの学習、どんな学習が行われているのかを、校長先生からお話いただきます。その後の協議を通して、根室市の総合的な学習、探求の学習をどのように系統立てて組み立てていくのかを考える契機になればいいかなと期待しているところであります。個人的には資料2にありますとおり、学習内容は、小学校では多様な学習が展開され、中学校で広く浅く、高校で深く狭く学習しながら、次第に感性を育み、関心意欲を広げながら課題発見しその解決に向けて実践力とか挑戦力を高めていくことができるような系統を考えているところです。

しかし、現状では一番上の「実践力」とか「挑戦力」、そこまではまだまだたどり着いていないかなという印象も受けます。その要因としては「学習活動・方法」にあるのではないかなと考えており、従来先生が教えて先生の言う通り聞いていくというような学習からは脱出して、自分で自分の学習を調整しながら組み立てていく、そんな力が求められています。

本来ならば一番下の「自己選択」から始まって、その学習を「自己調整」しながら、そして自分の学習をする、コントロールできるように自分の裁量を次第に広げていく学習を展開していくことが望ましいというふうに考えておりますが、現状としては、正直なところその逆となっています。

進学するにつれて、次第に自分の裁量が狭められ、先生の指示に従う学習方法となっていることが問題ではないかな、と考えております。こうした問題意識について、本日皆さんと共有しながら今後の系統立った学習を考えていきたいと思っております。

以上です。

<石垣市長>

ありがとうございます。

それでは、小・中・高の取り組みについて各校長先生からお話いただきたいと思っております。

はじめに、北斗小学校の飯田校長先生、お願いします。

<飯田校長>

本日いただいたテーマで、「ふるさと根室を想い行動する子どもたちをどう育んでいくか」ということでお話させていただきます。行動するというはとても大事だなと思い、行動に移せる子どもたちにしていきたいと思います。

私は37年前に光洋中学校に着任しました。そのときの子どもたちと今の子どもたちを比べて確実に言えるのは、根室のことを子どもたちが好きになっていると感じます。

9年前光洋中学校の教頭、7年前に柏陵中学校の教頭でしたが、そのときと比べても子どもたち本当に根室に誇りを持っていると感じ、それはびっくりして嬉しかったです。

本校の全国学力状況調査、児童質問紙を確認していますが、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、肯定的な回答を、北斗小学校6年生60.8%、全国平均を上回っています。まだこのときはお祭りも経験しない児童も多かったですし、そんなに地域行事はなかったのですが、全国平均を上回る結果となりました、

それから、「地域や社会を良くするために何かしてみたいと思うか」、北斗小学校84.3%が肯定的な回答です、私はこれがものすごく嬉しかったです。

昨日も市長と教育長にいらしていただいて、子どもたちが、ふるさと報告会を行いました、やっぱり前向きに考えることができる子どもたちになっているな、と思っているところです。

私はこのねむろ水産物普及推進協議会のポスターの写真が大好きで、子どもたちもこれをすごく好きで、こういうものがあるから、どんどん好きになるのかなって思うわけです。

各保幼小中高でどのような取り組みが行われていて、それで今こういう状況になっているのかということ、学校運営協議会の方々と一緒に作ってみました。

これを見ますと本当に多種多様な取り組みを保幼小中高で行われているということがよくわかります。

ただ、このプログラムにしている、系統性がどうなのか、内容的に先ほど教育長からありましたけど、ちょっと課題がありますので、これについてはこれから調整していくことができたかなというふうに考えております。

これから色々な取り組みを紹介します。

まずは水産学習です。

幼稚園、さんま祭りに参加しています。

小学校の良い点というのは、各教科全部でふるさとを扱う可能性があるという事です

中・高となると、なかなか教科で扱えないという難しさもあります。学芸員の外山さんはものすごくいいお話をしてくれますので、各学校等にいらしていただけるといいのではないかなというふうに思います。

次が、今年は3年生が缶詰工場に見学に行ったときですが、すごく丁寧に対応していただいて、子どもたちも大喜びで、「質問ありますか」と言われて全員が手をあげるくらいでし

た。さらに缶詰まで1人1つずつもらっていました。4つの漁協青年部の方がお話しをしてくれまして、3年生の子どもが4つに分かれてしまうのが勿体ないくらいでしたが、自分の興味あるところに行こうということでそれぞれお話を伺いました。4漁協の皆さんそれぞれで大きなタコとか持ってきていただいて、すごくありがたいプレゼンをしていただきました。

花咲小学校でも漁協出前授業を行っていますし、根室市「いい魚の日」もございました。ふるさと給食として提供していただきました。そういったことが、子どもたちが誇りを持つ一つの要因なのかな、と思います。

次にさんま祭りでの光洋中学校吹奏楽演奏ですが、今年は参加できませんでした。

根室高校では東海大学海洋学部とのつながりもありました。昨日子どもたちからもありましたが、根室管内って大学がないのですよね。東海大学の海洋学部のような大学を誘致できないのかな、なんて話を子どもたちはしていました。今度できる体育館の横とかに設置していただくなど、現実的な観点ではないのですが、夢を見てほしいと考えてところです。

次が自然環境関係です。

幼稚園や保育所では、遊びを通していろんな取り組みをされています。

子どもたちって大人が取るに足らないようなものでも、飽きずにじっといつまでも見ています。ああいう姿は嬉しくなります。天才だなと思います。でも、だんだん年を取るとこういうのがなくなっちゃうのですよね。これこそ教育長が言っていた「感性」の部分であって、すごく大事にしたいなと思います。

まずは小学校1年生です、もう1年生でも、既に写真の様子でわかるように、きちっと観察を行っています。

次に2年生3年生ですが、自然に興味を持って観察をしています。蒸し暑い中、本当に夢中になって観察しています。そういう姿勢も大事にしたいと思います。

いきなりですが、この名前わかりますか。

シマエナガですよね。昔はあんまり有名ではありませんでしたが、最近急激にメディアに出ています。これを広げたのが東京の人なのです。「モフモフでかわいい雪の妖精シマエナガ」の仕掛人は東京生まれの写真が撮られている方です。

私はこれを聞いて悔しいと思いました。東京の人にこうやってアピールしてもらうのに、地元において普段近くにいる我々は気づかない、こういうものに気づいてアピールする感性を持ちたいなと思います。

ずっと合言葉にしているのですが、インナーブランディングとって、中にいる人たちがブランド化できるということがすごく大事ということです。

この根室の良さを住民自らが地域社会へ発信できるそんな力を、ぜひ子どもたちも大人も持ちたいなと思います。

そして教育長から教わった言葉ですが、「センス・オブ・ワンダー」澄み切った洞察力、美しいものへの直観力、大人はつまらない人工的なものに夢中になって鈍化していきますので、子どもたちの天才ぶりをぜひ大事にさせていただきたいなと思います。

先日、10月31日に子どもたちが朝一番、校長室に、「先生、昨日、雪虫いっぱい飛んでいました！」と報告しに来ました。昨日ということは10月30日、雪虫について私もよく知らなかったのですが、調べてみたら「トドノネオオワタムシ」といって、トドマツからヤチダモの樹に移っていくようです。

根室では雪虫が飛んだら、平均26日後に雪が降るという統計があるようで、今年はどうかというと、ぴったりでした。26日後の11月25日に雪が降りました。びっくりしました。この雪虫についても、子どもたちが感じとることはとても大事だなと思いました。

光洋中学校では「ウォークフォトラリー」や地域清掃「クリーン光洋」も行っています。成央小学校がいいなと思うのは、根室市の公園ありますね、1ヶ所じゃなくて、学年ごとに異なる公園を訪れています。そのため、6年間で全部の公園を訪れることができるのかなと思います。

幼稚園、保育所では、年次行事を本当に大事にいただいています。

続いて北方領土学習、アイヌ文化の学習も行っています。主にアイヌ文化については修学旅行等を利用しています。各学校では北方少年少女塾にも積極的に参加しているところで

す。次に、今年はありませんが、しばらくお祭りがなかったので、例大祭の歴史講話、4年生を対象に行いました。子どもたちは意外と知らないことが多くて、大変勉強になったなと感じているところです。

そして高校生の出前講座、各小学校と中学校に来ていただきました。

根室市ですごいなと思うのは、生花そして華道ですね。他に着付け教室など、伝統文化に関して触れる機会がたくさんあります。情操教育はすごく大事で、大変ありがたいことだなと感じております。先日は茶道も行い、日本舞踊も毎年行っています。子ども達は本当にいい表情をしていると思います。

次は地域産業学習です。

3年生は消防署、警察署、スーパー、コンビニなどを見学、訪問させていただいております。毎年訪問する場所でも、いつも快く受け入れていただいております。4年生では、ゴミ・下水処理施設・浄水場を見学します。

高校になると、地元の産業説明会、地元定着説明会が行われています。

酪農・農業林業関係です。

保育所、幼稚園で乗馬体験や野菜収穫、苗植え体験などを行っています。小学校4年生は林業体験に参加させていただきました。続いて栽培関係、畑作業も行っており、高校では地域清掃や警察署と連携した「ひまわりの種プロジェクト」を行っています。

福祉・人権租税関係です。

デイサービスの訪問や、税について考える租税教育、光洋中学校でのアイマスク体験、根室高校では平和学習を行っています。

進路指導・キャリア教育についてです。

主に中学校では1年生が職業調べ・キャリア講話、2年生で職場体験、3年生の修学旅行等で専門学校への上級学校訪問を行っています。花咲、成央、港小では中学校で一緒になるので、3校交流会を行っています。

根室高校の先生方による中学校での出前授業、また、各小学校で新入学児童体験入学を行っています。根室高校進路別ガイダンスに加え、インターンシップ、インターンシップ報告会も行っています。

次が情報リテラシーです。

携帯会社の方に講師として来ていただいたのスマホケータイ教室、花咲港小学校ではプログラミング・ドローンの体験会も行いました。

防災減災教育については、幼稚園・保育所での防災・防火教室ですが、消防署の方に来ていただいて避難訓練を行っています。北斗小学校6年生は防災マップの確認をしたりしています。花咲港小学校では、交通安全看板を作成したり、避難所開設ゲームも小・中学校で行っています。

最後に、まとめの学習について紹介します。

小学校3年生が「根室のいいとこアピール隊」ということで、自ら絵を描いてPRを行っています。今度、中標津空港に展示させていただけるというお話をいただきました。

そして5年生の「根室プロデュース」、6年生の「根室市をよりよくする模擬議会」「地域おこし協力隊による講話と取材」、講師として来てくれる方に子どもたちはたくさん質問をしていました。昨日の「ふるさと学習まとめ発表会」の様子を早速新聞記事にさせていただきありがとうございます。

他にも、まちづくり講座や花咲小学校では黒部市とのオンライン交流で「根室自慢」を行っています。すごくいい活動だなと思います。

最後にまとめです。

あくまでも私の個人的な考えですので、実際にこうやりましょうということではなくて、こういった考えもあるのではないかと聞いていただければと思います、私見が5つほどございます。

まず1つは、知識理解習得型のふるさと教育、つまりいろんな説明を聞くという内容ですが、そこから始まって最終的には段階的に創造・探究・発信型への視点で、プログラムの妥当性・系統性・継続性を検証していきたいなと考えております。

2つめが根室好きから根室愛へ、ということですが、先月うちの職員が結婚しまして、スピーチを頼まれたものですから、その時「好き」と「愛している」の違いとは何ですかという話をしました。好きというのはそのままの意味です。愛しているというのは課題とかも含めて、相手の良さも全部含めて好きってことが愛することですよ、と熱弁していました。

根室市のことも、課題も全部ひっくるめて、それでも住みたいし、好きだし、何とかしたいという気持ちを持つ、そんな子どもにしていきたいなと思います。

そして3つめです。

極端な話なのですが、子どもたちは意外とお金のことを知りません。だから小学生が考えることは突拍子もないことも多いです。そんなことを市長にお願いしたりしがちです。お金の流れを知り、お金のことでいかに苦労しているかということ、後に知らせるためにも、実際にお金を稼ぐような体験をやるのもいいのかなと思います。

起業家教育、ビジネス実践、擬似株式会社、保護者とか地域の方に株式を購入してもらって、それをもとにビジネスを展開して配当金を出すとか、そんなことも実際に行わせてもいいのではないかなと思います。子どもスーパーマーケットも面白そうな取組かなと思います。また、100万円の予算を与えて、地域のためにみんなが納得するように、それをどう使うか決めなさいって任せてみるのも考えました。

4つめです。

学校側の問題ですが、働き方改革が進まない現状もありますので、地域との連携、地域と関わることでかなりいい取り組みができるのではと考え、もし可能であれば、地域連携担当支援員さんを1人配置していただき、市内校を週1回ずつ勤務していただくというのも良いかと、そうすることで地域との繋がりもスムーズになるかなと思います。

児童質問紙に戻りますが、「日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらってほしいと思いますか」という質問に対しても肯定的な回答をしており、全国平均よりも高いです。

次の質問です。

「外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか」4段階評価で肯定的な回答は上の3点を採用しているのですが、最上位の回答は全国と比べて半分以下ですね。外部との繋がりについて、モチベーションが高くありません。

そこで5つめです。

国際理解教育の推進です。技能実習生も多く来ています、ということで、そこと交流をしたいと考えています。故郷の良さを世界に発信するグローバルな力を育てていきたいと考えております。

以上です。

<石垣市長>

飯田校長先生ありがとうございます。

次に光洋中学校齋藤校長、よろしく申し上げます。

<齋藤校長>

私個人の学校教育についての考えなのですが、キャリア教育の考えが土台にあって作られているものだなと思います。

キャリア教育というのは、やはり生き方教育ですので、まさに将来の、未来の人作りだと思っています。生徒とともに、私も含めて先生方の人間性を高めているのが学校だと考えています。私自身もまだまだ不十分なところも多くあり、日々研修しているところです。

そこで光洋中学校では「自己を知り次への一手」ということで、長所や短所を把握しながら、長所を生かすために何を行うか、それから、短所を克服するためにどうするのか、短所は克服せずに長所を生かしていくのか、そのときに人間関係に歪みが生じていないかなど、日々生徒指導や学習指導をしながら、生徒と先生が対話しながら対応しています。

この対話が本校の指導のベースにしている「ピアサポート」です。

そして、「より良く」「認め合う」を合言葉に日々の教育活動を行っているところです。「未来につなぐまちづくり」をテーマとする学校の教育活動を、本校では「根室学」と呼び、各学年で取り組んでいます。

1年生は根室市の資源を知る、2年生で根室市の福祉とまちづくりを考える、そして1年生、2年生で学んだことを生かして、3年生で根室市の未来、根室市の課題を考え、持続可能な社会の実現について考えています。

光洋中学校区というのは学校区にある小学校中学校が4校あります。先ほど教育長が、「目指す15歳の姿ではなく、将来の根室市を担う人材育成を行う。」とおっしゃっていましたが、光洋中学校区としては、目指す15歳の姿ということで三つあり、そのうちの一つに「根室を愛し、夢を持つ人」があります。そこを育てるために、先ほどの根室学や、飯田校長先生の資料にありましたが職業体験を行っています。その中でどれだけ子供たちにやりがいを感じさせることができるかということが大切だと思っています。

夢の実現のためにどうするのか、例えば「クリーン光洋」という活動を行っています。ボランティアのゴミ拾い活動のことです。残念なことに根室市、ポイ捨てされているゴミが非

常に多いです。単にゴミを拾うだけじゃなくてポイ捨てゴミの多さをどのように感じるのかということを考えさせることが大切になります。それについて考える感性を育てています。感性は個人それぞれです。だからこそ、幅広く物事を見ることができるよう、学校教育で様々な価値観を養っている状況です。

このように子どもたちはポイ捨てのような課題も含めて、ふるさと愛について、様々な学びから勉強していますが、今後子どもたちを導く、教えているその教師はどうでしょうかということです。

我々が大人になり、昔のことを考えるときに、いろいろな思い出が出てくるのですが、地域のお祭りもその一つなのかなと思います。それは活気があり、周りの大人たちの楽しそうな笑顔があり、お祭りを大切にしている地域を大切にしているからではないでしょうか。その祭りも子どもたちの参加が少なくなっています。

先ほどのデータでは全国平均よりも高かったですが、今年のお祭りについては、子どもたちの参加が少なかったです。その辺を考えると、やはりどうしたらいいのかというところを考えないといけないのかなと思っています。

そこで子どもたちも祭りに参加し、ふるさと学習を子どもたちに深く学ばせるためには、先生方が積極的に地域行事、お祭りなどに参加することも一つの手段だと私は思っています。お祭りを楽しんで理解することが大切だと考えます。そこで人と出会い、繋がりができて、先生方が教育活動に生かすことで深い学びに繋がっていきます。

子どもたちは先生方が地域行事で楽しんでいる姿を見て、学校に戻ってきたときに会話が増えます。そして子どもたちも参加したいと思うようになり、それが未来の根室市のイメージを作っていくのではないのでしょうか。

イメージは経験からくるものではありませんが、漠然と関わっていてもイメージは膨らみません。いかに子どもたちの心に刻んでいくのか、そのために我々としても、子どもたちの伴走者として地域に積極的に出ていき、楽しむ姿を見せることだと思います。

子どもたちが大人になり、過去を思い出し、地域を支えるためにイメージして地域を作り上げる人材になることが、根室への恩返しだと思っています。

以上で説明を終わります。

<石垣市長>

齋藤校長先生、ありがとうございました。

次に松田校長先生、よろしくお願いします。

<松田校長>

私の方からは、主に探究活動についてご説明させていただきます。

まずはバスでの地域巡検ということで根室市から支援をいただいております。

今年度は地域巡検を10月に行いましたが、事前講話においては、石垣市長、波岸教育長からも講話をいただいておりますことに感謝申し上げます。

今年度、探究活動の充実を図るために、昨年度よりもさらにプラスアルファした活動を行っており、地域巡検の実施までにこのような活動を行っています。

根室市の課題について考える、ということで、根室市で作成しているSDGsの資料、さらに根室市の統計書を活用していますが、根室市の統計書は素晴らしいと感じております。他の統計書はグラフ、データだけの記載が多いですが根室市のものは、加えて図が入っています。これは小中学生、高校生が見ても明らかで、すごくわかりやすく示されているものです。さらに、新聞を読むような活動を取り入れながら進めていきました。そういう活動を通して地域巡検に繋ごうという流れを作りました。

巡検までの途中段階で、根室市の教育委員会が12名の職員を派遣していただき、ご支援いただきました。そのような活動を見ていただいたおかげで、新聞に、「根室高校の郷土学習本格化」ということで掲載していただきました。これからさらに活動を活性化させようと動いているところです。

資料についてご説明します。今現在完全にできているわけではありません、このような形で今後進められたらなというお話です。

探究活動の過程について、本校では「育成される資質・能力」ということで押さえておまして、そのような力をつけさせるために、探求の過程に取り組みたいと考えており、課題の設定、現状分析、根拠に基づいてデータを考えたり、仮説の構築、解決策を提案し実践、というような流れを最終的には高校の段階で行いたいと思っています。

このような体験を生徒たちに経験させることで、将来生徒たちが問題や課題に直面したときに立ち向かえる姿勢が備わっていたり、または協働して仲間たちと新たなものの価値を創造するというような活動ができるようになればと考えております。

続いては、先ほど市長のお話にもあり、根室市市政方針にもあるように、主体的に自らの未来を開く、故郷の豊かさを実感できる教育にすることができるのではないかというふうに考え、現在高校においては、次年度の活動に向けて探究活動特別チームを立ち上げています。さらに先進校の視察も行っており、今週金曜日に2名を派遣してございます。

また、北斗小学校の発表についても、早速ですが1枚の新聞も含めて、報告書を作って、探求メンバーで会議をする予定となっております。

様々な事例を参考にしながら、今後どんな環境ができるかということを検討してまいりたいと思っています。

概念図の右側をご覧いただきたいのですが、実は高校単独で行うことは難しいです。実際全てがうまくいっているわけではありませんが、統計後、様々な発表会をするなど探究活動を充実させています。高校だけで地域の課題をもとに、自分たちだけで活動するのは大変困難な状況です。

概念図にありますように地域の方々と年次協働して、皆さんと協力しながら郷土愛を高めるための取り組み、人材育成を図りたいというふうに思っております。多くの事業所の方々に応援支援いただければ、色々な、例えば講演だとか、準備の段階で外部と繋いでいただいたり、一緒に計画したりということができれば、というふうに考えております。

以上です。

<石垣市長>

松田校長先生、ありがとうございます。

それではただいまの説明を受けまして、各教育委員さんが学校教育について日頃感じていることや、疑問等がありましたらお話いただき、意見交換したいと思います。

まず初めに、岩崎委員をお願いします。

<岩崎委員>

子どもたちに根室の郷土愛を伝えるためには、身近な大人が子どもたちに伝えるということが一番子どもの心に響くのかなと思いました。根室の良さ、自然や文化、食に触れることなどありますが、根室に赴任されてきた先生にはぜひ根室の人と一緒に、文化に触れることができる機会を作っていただきたいと思えます。

先ほど斎藤校長先生がおっしゃったことかもしれませんが、何か楽器をなさっている先生がいたら、根室市民交響吹奏楽団に入るとか、例えば、地域行事が好きな人はお祭りに参加してみるとか、そういうことで人に触れる機会はたくさんあると思えます。

そういった経験を通して自分の経験を子どもたちに話すということが子どもの心を引いたり、気づきを与えたりすることに繋がっていくのかなと思えました。それで子どもたちが改めて根室の良さを知っていくということや、もっと知ってみたいと感じたりすることに繋がっていけばいいのかなと思えました。

あと先日、根室市民大学を受講したのですが、こちらの先生方が根室のことをとても褒めていまして、根室の貴重な自然のこともお話していただきました。改めてすごいなと思った反面、難しいお話をしていたので、理解できることとできないことがありました。子どもたちにも優しい言葉で伝えて、それを聞いた子どもが根室に対して誇りを持つような機会を与えていただけたらなと思えました。

以上です。

<石垣委員>

私は、そもそも生まれも根室ではないものですから、かなりあちこち渡り歩いて、最終的に根室にたどり着いているのですが、基本的には「住めば都」派なので、住んだところを好きにならずにいるというのは非常に苦痛に感じることです。今まで住んで、なんとなく遊んでいたところなど、好きなところばかりでありました。先生がおっしゃったように、好きか

ら愛に変わるということになると、やはり関わりを深くしなければ愛にまでは転じないのかなと思います。

おかげさまで根室に来てからは、教育委員の席にも座らせていただいておりますし、さんま祭りの実行委員ですとか、結構長くやらせていただいて、根室の町は多分、私の人生の中で一番深く関わった町なのかなと思っていますので、私は好きから愛に変わっているというのが現状かなというふうに思っています。

子どもたちは、まだ根室しか知らないので、生まれてここにいるということが、果たして自分にとっていいのか、悪いのかがわからないという子たちもたぶんいるのだと思います。そういうことを考えると逆に先生方は、地方から来られる方も多いので、自分の住んでいた町や育った地域などのお話をいただいた方が、自分の住んでいる町と今まで先生方が育った町と違うのだなという比較もできますし、それによって改めて自分の町の良さというのを実感できるのではないかと思います。

関わりを深くしていくという話になると、先ほどいろいろ出前授業を受けたり、工場に見学に行ったりという話をされていましたが、本来であれば、ふらっとその場所に行っても、その方々と関わっていけるというような、その辺にいる漁師さんとかにちょっと話したり、ハードルを低めにしていくと学校では学べないようなことも学べると思います。

その辺は大人の理解も必要で、子どもたちがやって来たときに、仕事の邪魔になるという話になるのではなくて、様々な形でうまく地域に取り込んでいけるような、大人側の仕組みも作っていければ深い関わりになれるように思いますので、そのような体制を作っていくのがいいのかなというふうに思いました。

<魚谷委員>

ふるさと愛醸成事業という形で本当に小中高と様々な取り組みを行っていただいておりますし、着実に成果が出ているのだなと感じました。

最終的なゴールとしてはやはり教育長がお話したとおり、市民を育てるってということかなと思います。根室が好きだから外に出ても戻ってきてもらえる、そこが一番のゴールかなと思います。

先日、落語家の春風亭昇太さんのお話を聞いてまいりました。落語というのは想像の娯楽です。落語家が話しているところを、何かこういうことをしているなと想像して楽しむ場、ということでお話をされていました。

春風亭昇太さんが高校に落語の講座に行ったとき、やはり偏差値の低い学校というのは大変なんですというお話をしていました。本を読んでいるか読んでいないかということも重要で、本を読んでいる子と読んでいない子の想像力には決定的な差がある、ということです。

想像力というのはやはり未来を予想する力というか、何かを成し遂げる力だと思っています。郷土愛が熟成して、さらに次のステップで先生がお話した創造、探究、発信という部分に行くには、こういった想像力、未来を見る力は必要になってくるのかなと思います。

子どもたちが自分たちで考える力、やる力、これらを育てられる事業を何か発信できたらいいなと思います。

<児玉委員>

飯田校長が説明していた、「今の子どもたち、昔の子どもたちより根室が好き」という話は、確かにと思いながら聞いていました。

私の子どもも根室がとても好きで、私が根室に住んでいた小学校の時よりも好きだろうなと感じる時があります。私が子どもだったときは、早く都会に住みたい、早く根室から出て行きたいというような思いが少なからずあったと思います。私の子どもは逆の考えで、どうして根室に大学ってないのか、大学まであってそのまま根室に居続けたい、というようなことを言うので、地元っていう安心感と郷土愛もあるのかなというふうには思います。

東京にいる私の友人が今週は小学生の子どもを連れて早稲田の学祭に行くとか、東京理科大学に行くというような話を聞いて、根室では難しいことだなと感じました。あとは中学受験に関してもですが、勉強が大変とか、受験のために勉強を毎日毎日しているという話を聞くと、やっぱり親としては少し焦る気持ちもあります。

ただ、いろんな話を聞いていくうちに、同じことを求めても、その土地ごとに向き不向きとか長所短所というのがあると思うので、中学受験がないとか、高校受験の倍率も大幅に高いわけではない、というのはデメリットではなくメリットではないかな、と考えています。

中学校に入るときに、テストに受かるためのテクニックっていうものはまだ知らなくても、本質的な勉強をしたら最終的にはテストに合格するという、テストに合格するためだけのテクニックではなく、本質的にしっかりと深く学べるということが、メリットなのかなというふうに思いました。

以上です。

<石垣市長>

委員の皆様、ありがとうございました。

次に、意見交換に移ります。

私から校長先生に聞きたいことは、今年度猛暑日も多く、湿度も高い日が続いていましたが、小学校、中学校、高校の学生は大変だったのではないかなと思います。学校として今年の夏はいかがでしたか。

<飯田校長>

小学校は暑さに児童が慣れていないということもあり、かなり暑そうにしていました。

3階がかなり暑さの影響を受けていまして、室温が30度を超える日も多く、外での体育を中止したりするなどの対応となりました。

来年以降どうなるのかなと思っているところです。

<齋藤校長>

中学校も同じではありますが、小学生と違うところは体の発達によって少し我慢強くなっている部分があるので、我慢している生徒もいました。猛暑日の外での体育はなくす対応もしました。校長室も非常に暑いので、クーラーを設置していただけると大変助かります。

<石垣市長>

高校の窓枠エアコンについては、一時的な設置になるのでしょうか。それとも常設になるのでしょうか。

<松田校長>

常設になります、クーラーの常設と、あとは夏休み等の日数の調整を検討しています。

<石垣市長>

避難できる場所を確保しなければならないということで、小中学校はまず、保健室にスポットクーラーの設置を終えています。エアコンの設置については現在検討中であり、後程お話を伺いたいと思います。

他にご意見等はございますか。

<波岸教育長>

昨日、市長と北斗小学校にお邪魔して、子どもたちの素晴らしい発表を聞きました。その後、歩いて帰りながら、何か言い足りなかったな、と考えていました。

昨日子どもたちは、美味しい食べ物、天気の話、お店とか、建物とかの話をしていました。その中で根室にしかないものって何だろうと思ったら、根室にしかないのは、豊かな時間、豊かな空間なのかなと思いました。そこから豊かな五感が育まれるのかなと感じ、豊かな時間を持っているというのは、私達の誇りなのだろうと、そういう感性を大人も子どもと一緒に育てていければいいかなというのを、皆さんの意見から感じた次第です。

そのことから、豊かな空間をさらに快適にするためにも、エアコンも必要であるなと思いました。

以上です。

<魚谷委員>

エアコンの設置に関してですが、先日北斗小学校を訪問させていただきました。その際、室温もそうなのですが湿度がすごく高いなといった印象でした。今インフルエンザも流行っていて、インフルエンザと湿度って関係が密接だと思います。そういった意味でもやはりエアコン設置、健康被害に配慮してほしい面もあり、老朽化が進んでいますので、調整等が難しいとは思うのですが、検討を進めていただければと思います。

<石垣市長>

他にございますか。

<佐藤教育総務課長>

空調設備の現状について、ご説明させていただきます。

市長からもお話がありました空調設備ですが、現在、保健室の方には、小中学校全てに1台ずつ、スポットクーラーを緊急的に配備しているところでございます。

それとあわせて、今年度どこまで整備できるかということもありますが、保健室にエアコンを整備していければなということで、現在、事業者エアコン整備に係る工事や費用等の確認をしているところであります。

しかし、整備にあたっては課題も多く、設置場所や台数の選定、エアコンを設置するための電源工事の必要性など、現在教育施設も含めて来年度に向けて、今お話したような課題を解決するため、設計を入れながら順次整備をしていく、ということで協議を進めてまいります。財源等についても、市長部局、財政部局とも協議しながら進めてまいります。

以上です。

<石垣市長>

熱中症対策については、今はたまたま学校の話なのですが、公共施設もありますので、全体でどうするのかと話をしっかり決めた中で、ただ、そこで決めるだけでは時間が経ってしまうので、進められるものは進めていきたいと思えます。

発注に関しても、私たちがエアコンについての一定量の知識がなければいけないと考えております。オーバースペックにする必要はないと私は思います。常に微小で稼働させるのはその規模である意味がないと思えます。逆に強で稼働してちょうどいいぐらいを目指してもいいかもしれません。

他にご意見等ございますか。

(特になし)

<石垣市長>

市政方針の中で、「教育施策の展開にあたっては、将来を担う子どもたちが主体的に自らの未来を拓き、生涯を通じて学び、活躍できる多様な機会を提供するなど、住み慣れた故郷の豊かさを実感できる教育・文化の振興を図る」ことを掲げています。

私は、今回市長に再選した際、「恩送り」についての話をしました。受け取った恩をただ返すのではなく、また違う誰かに渡していくというもので、自分が受けた恩を他人に繋いでいくというのはまちづくりの原点です。

そのためにもやはり若い人が、こういうの欲しいよねという要望を、素直に聞けることも必要なのかなと思いました。そのようなことから、今後も「恩送り」の気持ちで子どもたちに繋いでいけるかな、そんな思いです。よろしくお願いします。

議事 市教委各課の課題と将来に向けた取組

<石垣市長>

それでは次の議事に入ります。

市教委各課の課題と将来に向けた取り組みについて、教育総務課から順に説明願います。

・教育総務課長

「インクルーシブ教育の推進について」

【議案 1 P により説明】

・社会教育課長

「放課後教室における開館時間の繰り上げ等について」

【議案 2 P により説明】

「文化財の環境整備等について」

【議案 3 P により説明】

・社会体育課長

「新総合体育会館建設に関する取組について」

【議案 4 P により説明】

・図書館長

「学校巡回図書及びバリアフリー図書の充実について」

【議案 5 P により説明】

<石垣市長>

ただいま各課長から発表のありました事業については、市の政策会議において協議されてきたものであり、あくまでも市教委が「来年度予算要求したい」という段階の事業であります。

皆さんからご意見等ありましたらお願いします。

<石垣委員>

地方の都市などは特にそうだと思いますが、そもそも書店自体がかなり減ってきて、根室の書店も1店舗ぐらいしかないかなと思うのですが、図書の充実というのは進めていただきたいと考えています。

先ほどの情操教育というところもありましたけど、今ネット通販とかで買える時代ではあるかと思いますが、やはり目的を持って買うというのも大事ではありますが、何気なく触れる本というのも大事だと思うので、そういう場というのがイベントや書店が少ない町にと

っては、図書館ぐらいしかないのかなと思うので、図書の充実を図ってほしいというふうに思いました。

以上です。

<松崎図書館長>

貴重なご意見ありがとうございます。

ふるさと基金も活用させていただいております。現在幅広い分野の新刊や小説、雑誌、一部漫画など、非常に図書館は充実した内容だと思います。

今後におきましても、ニーズの高い部分から、特に水産業のまちで、専門知識についての本とかも意見交換しながら、あと一般の市民の方もリクエストできるようになっておりますので、それらのリクエストの8割方、意見をいただいて本を整理しています。一部ではあります。趣向が偏った本を要求されることもありますので、そちらの方は、ご遠慮いただいている状況です。ほとんど市民の要求には応えながら本を整理しておりますので、今後も、学校巡回図書と合わせたバリアフリー図書と合わせた形で、広く全ての方が本を見ることが出来る環境づくりに努めてまいりたいと思います。

<石垣市長>

他にご意見等ございますか。

<魚谷委員>

インクルーシブ教育についてです。

現在非常に注目されていると思いますが、子どもにとって一番できる学びというのは、遊びだと思います。こちらに関しては市内の公園に設置する計画もあると思うのですが、花咲港小学校の中にインクルーシブ遊具を入れていただいて一緒に遊ぶというのもやはり大事だと思いました。

次に、新総合体育館の建設についてです。

私自身も青少年センターを週に1、2回利用しています。青少年センターはもちろん避難所にもなっていると思います。

また、資材も年々高騰しており、人件費も高騰しています。これがこれから安くなるということはないと思いますので、1年でも早く体育館の建設をお願いしたいと思いました。

以上です。

<石垣市長>

他にございますか。

(特になし)

<石垣市長>

熱心な意見交換、ありがとうございます。

本日、皆さんからいただいたご意見・ご提言は、今後の施策検討に向けて、庁内の関係部署とも情報共有してまいります。

その他事務局からございますか。

<園田教育部長>

特にございません。

閉 会

<石垣市長>

それでは、本日本日予定された議件は全て終了いたしました。

本日いただきましたご意見も踏まえながら、当市の将来を見据えた教育施策を、着実に進めてまいりたいと考えております。

本日は貴重なご意見をいただき誠にありがとうございます。

<佐藤教育総務課長>

以上をもちまして、令和5年度根室市総合教育会議を終了いたします。

11時40分 閉会